

序盤設計書

1. e4 編

antilles(twitter: @Antilles91)

2019/4/29

目次

はじめに	3
1 Caro-Kann, Advance, Tal Variation	4
1.1 序論	4
1.2 序盤の考え方	4
1.3 4... h6 の変化	7
1.4 4... Qb6 の変化	9
1.5 4... h5 の変化	11
2 French, Tarrach, Closed, Korchnoi Gambit	18
2.1 序論	18
2.2 12... Bc5 の変化	20
2.3 12... Be7 の変化	20
2.4 12... Qb4 の変化	21
2.5 Anti-Korchnoi Gambit	22

はじめに

本書は、著者のブログに連載していた、チェスの序盤定跡に関する記事に大幅に加筆修正を行ったものです。

日本でチェスを指す際に常に問題になっていた (そして、現在でも決して解決されているとはいえない) ことは、日本語による情報の少なさでした。近年でこそ、Fischer の My 60 memorable games の和訳など、中級者、上級者向けの本が公刊され始めていますが、それまではチェス書籍といえば入門書ばかり、といった状況にありました。このような、「入門書を読み終えたプレーヤーが日本でチェスを勉強するには英語が必須」といわれる状況は、チェスの普及にとって、好ましい状況とはいえないと考えています。私も一介のチェスプレーヤーとして、日本のチェス人口がもっと増えてほしい、と夙に願っています。そのためにできることとして、私はブログにおいて大会のレポートや序盤の紹介を行ってきました。日本でチェスを続けていきたい、もっと勉強したいと思う方のために、少しでも情報発信を行いたいと思い、ブログで情報発信を続けてきました。

ここに、ブログで書いてきた記事のうち、序盤定跡に関する記事を切り出し、加筆修正して pdf の形でまとめて読めるように編集しなおします。ブログの形式であると複数の記事に分かれることによる読みにくさもあったため、読みやすさ・見やすさを優先して編集を行います。

チェスの序盤、そして序盤研究は非常に面白い分野です。コンピュータ、そしてチェスソフトが発展した現代にあっても、その面白さは減っていないと思っています。序盤のわずかな形の違いが、中盤でのプランの違い、そして終盤での勝敗の違いにつながることも決して少なくはないでしょう。そのようなわずかな形の違いに気づくこと、その違いが何を意味するのかを考えることは、極めて論理的な作業であるとともに創造的な作業でもあります。

序盤研究はコンピュータ、およびデータベースを使うことが一般的になっています。しかし、序盤を研究することは、決して手順を暗記することではありません。なぜコンピュータがその手順を最善としているのか、なぜスーパーグランドマスターがその手を指すのか、といった意味を知る必要があります。そしてその意味は、定跡ごとの狙いと、手順による形の違いを知り、そこからのお互いが可能なプランの違いを考えることにより、局面が教えてくれるものです。

本書では、1. e4 に対する黒の代表的な応答 (1... c6, 1... e6, 1... c5, 1... e5, その他) を取り上げます。本書は、分岐する序盤全てを取り扱うわけではなく、いわゆる「オープニングツリー」を作ることが本書の目的ではありません。そうではなく、序盤を研究する中で何をポイントにして研究するか、を説明する例として、いくつかの定跡を取り上げていると考えてほしいと思います。序盤定跡のレパートリーを見直す際の考え方の一助となれば幸いです。

本書は、一通り駒の動かし方や簡単なタクティクスについてすでに学び、対人戦においても何度か勝つことができるようになったレベルのプレーヤーから、FIDE レーティング 1700 前後のプレーヤーまでを想定読者としています。もし、本書の中でわからない単語があった場合には、以下のページが参考になるでしょう。

チェス用語小辞典 (英和)

<http://hnishy.la.coocan.jp/chessterms.htm>

2019 年 5 月

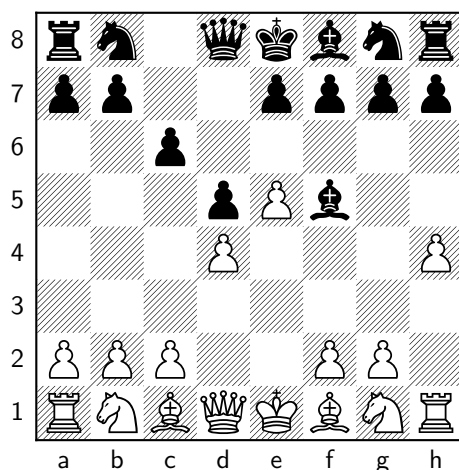
antilles

1 Caro-Kann, Advance, Tal Variation

1.1 序論

Caro-Kann Defense(1. e4 c6) は、非常にソリッドなオープニングとして知られています。1... c6 は駒展開には影響しない手ですが、その代わり d5 の地点を非常にしっかりと抑えることができます。また、French Defense(1... e6) と違い、c8 のビショップの展開を妨げていないため、c8 のビショップを f5 や g4 に出してから...e6 と指すことで、c8 のビショップがポーンの内側に閉じ込められることを防ぎます。

Caro-Kann に対する白の手段はいくつかありますが、近年流行しているのが Advance Variation(1. e4 c6 2. d4 d5 3. e5) です。センターからキングサイドにかけてのスペースの広さを主張する手です。これに対しては黒は 3... Bf5 と、ビショップを出すのが一般的です。この手に対して、4. h4!? とする手を Tal Variation と呼びます。



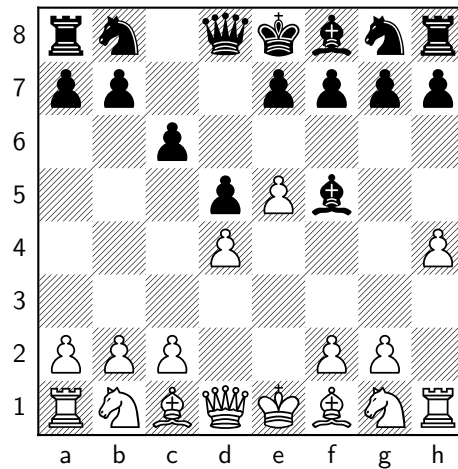
4. h4!?まで

1. e4 c6 2. d4 d5 3. e5 Bf5 4. h4!?

このオープニングは、Tal が 1961 年の世界選手権で、Botvinnik に対して連採したことで知られているオープニングです。その時にはあまり効果を挙げることはなく終わりました。しかし、それと同時に、また別の世界選手権でも非常に大きな役割を果たしたオープニングでもあります。2004 年の Kramnik 対 Leko の世界選手権、最終 14R、勝たなければ世界チャンピオンの称号を失うゲームで Kramnik が選んだのが、このオープニングでした。彼はこのゲームで 6 手目に新手を指し、そのまま勝利しています。

1.2 序盤の考え方

まず、4. h4 はどのような狙いを持った手かを考えます。



(再掲)4. h4!?まで

チェスは将棋と違って、序盤でルークの先のポーンを伸ばしていくことは非常に珍しいです。それよりもセンターを支配することが重要、とはよく言われることです。

この局面でも、センターの重要な d4, e5 マスに効きを増やす 4. Nf3 は、非常に自然な手です。それに比べると 4. h4 は不自然な手にも見えます。

それではなぜ、4. h4 が指されるのでしょうか？

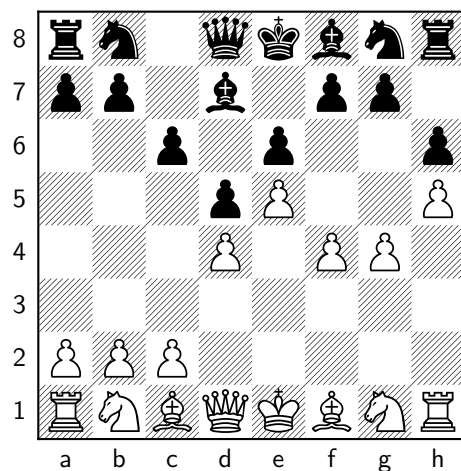
a. キングサイドにスペースを確保するもっとも直接的な手である

スペースアドバンテージという概念があります。自由に使えるマスの多さ、とも言い換えることができるかと思いますが、自分がピースをその中で自由に動かせる空間が多いというアドバンテージです。

よく言われるのは伸ばしたポーンの内側ですが、それに限らずピースの効きによって相手がピースを置けないマスも自分のスペースと考えることもできます。

少し変化を進めてみましょう。

4... h6 5. g4 Bd7 6. h5 e6 7. f4 (Caruana-L'Ami, 2013)



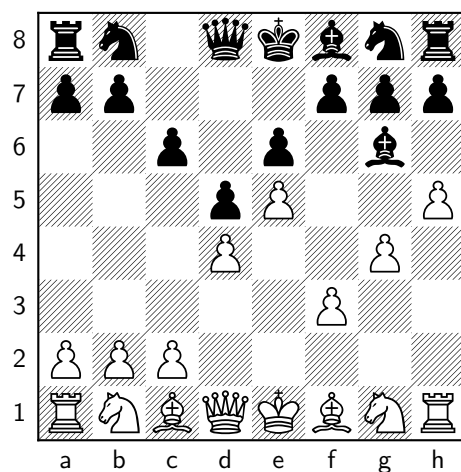
白のキングサイドは、白が好きに駒を配置できます。例えば、Ne2-Ng3-Qf3-Bg2-O-O として f5 から強くポーンを押していくこともできるかもしれません。一方黒はどうでしょうか。g8 のナイトが動ける先は e7 のみ、d7 のビショップは今現在 c8 にしか戻れず、クイーンも相当動きが制限されています。

このように好きに駒を配備できてプランの選択が可能、というのがスペースアドバンテージの利点です。4. h4 は次にキングサイドでスペースを確保するという積極的なプランの元にもなっています。

b. キングサイドでタクティカルなチャンスを生める、あるいは黒のポーン形を崩せる

Caro-Kann プレーヤーなら、一度はこのゲームを指したことがあるか、あるいは少なくとも見たことがあると思います。

1. e4 c6 2. d4 d5 3. e5 Bf5 4. h4 e6?? 5. g4 Be4 6. f3 Bg6 7. h5



4 手目が他の手であれば、4... e6 は好手なので、ついうっかりしがちです。

そうでなくとも、f5 や g6 のビショップをナイトなどによりアタックされることもあります。黒が最もドラ

スティックに白のキングサイドでの攻勢を防ぐプランは 4... h5 ですが、今度は h5 のポーンが攻撃対象になり、g5 のマスは白が好きに使える可能性が増します。

白は黒に「キングサイドを若干弱める」か「自由に白にキングサイドのスペースを取らせてキングサイドでのタクティクスのチャンスを作らせる」か、あるいは「手損する」(f5 に出たビショップを d7 に引く展開もあります) を選ばせることができます。

このように、4. h4 には良い点がいくつかありますが、もちろん悪い点もあります。黒にセンターからのカウンターを許すこと、伸ばしたキングサイドのポーンがターゲットになること、などです。

このように、どちらにも異なった主張があるため、非常にエキサイティングなゲームになります。

4. h4 に対する黒の主な受け方は、4...h5、4...h6、4... c5、4... Qb6 などがあります。どれも一局ですが、それぞれ全く違った局面になるので、面白いところです。

1.3 4... h6 の変化

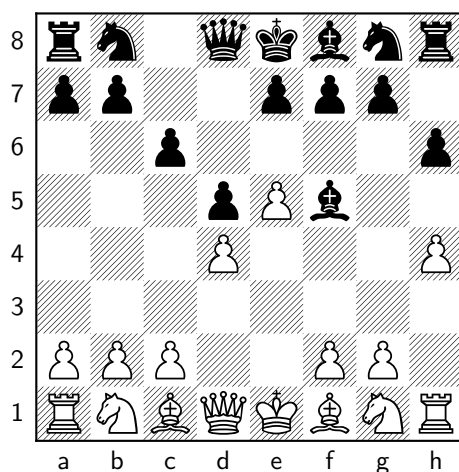
序盤定跡を学ぶときには、相手が最善の手、あるいは最もクリティカルな手を指さなかった場合に自分がどう指すと優勢になるか、を知ることが大事です。メインラインだけを抑えるのは良くないと言われる所以でもあります。

その時に重要になるのが、序盤定跡における thematic なプランです。この定跡形ではこの手を狙う、この手を指せば満足、という手を知っていると、「その手を指せるかどうか」という観点で局面を見ることが出来るため、手の選択にも悩まなくなり、定跡から外れた際の指し方の指針にもなります。

Tal Variation 4. h4 の変化で最もクリティカルな手は 4... h5 と思いますが、それ以外の手に対してはどのように対応していくか、これから見ていきたいと思います。

まずは 4... h6 です。

1. e4 c6 2. d4 d5 3. e5 Bf5 4. h4 h6



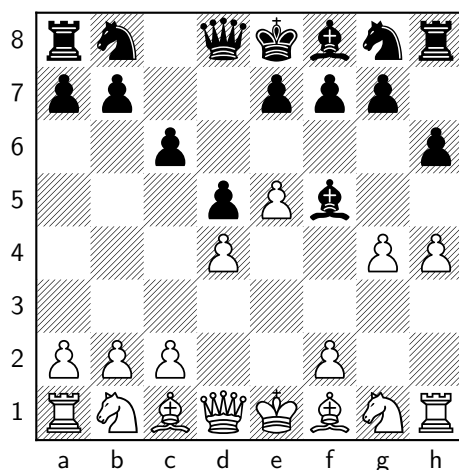
手の狙いを考える時には、「もし自分が 1 手パスしたら相手は何を指すか」を考えることが大事です。この局面、もし白が 1 手パスするならば、黒は 5... e6 を指すでしょう。

5... e6 後は、6. g4 とされても形よく 6... Bh7 と引くことができます。「バッドビショップはポーンチェーンの外側に」と言われますが、まさにそのような形になっています。

とすれば、白は 5...e6 を許さないような手を指せば、黒のプランを崩すことができます。

それが 5. g4! です。

5. g4



さて、黒はビショップがアタックされている以上、逃げなければなりません。最も自然な手は 5... Bh7 ですが、成立するでしょうか？

1.3.1 4... h6 5. g4 Bh7

5. g4 Bh7?! 6. e6!

この定跡は黒のキングサイドのポーン形を崩すことが一つのテーマになります。そのため、この e6 突きは非常に強力です。

6... fxe6 7. Bd3 Bxd3 8. Qxd3

白は、黒の弱い g6, e6 マスを攻めたいため、黒の白マスビショップを交換して消してしまいます。

8... Qd6 9. f4 Nd7 10. Nf3 O-O-O 11. Ne5 Nxe5 12. fxe5 Qd7 13. h5

自然に進めるとこのようになります。白のキングサイドのスペースとピースの動かしやすさ、黒のポーン得という構図になりますが、やはり黒のキングサイドが硬直するのが大きく、この局面は白が良いと思います。

これを避けるために、黒は 10... e5! としてポーンを返すのが面白いでしょう。しかし、それでもやはりキングサイドのスペースは大きく、白が良いと思います。

1.3.2 4... h6 5. g4 Bd7

4... h6 5. g4 Bd7

5... Bd7 と、こちらに引くのが良いとされています。これは手損であり、Caro-Kann のテーマである、白マスビショップをポーンチェーンの外に出してからセンターに反撃するというプランとも一貫していないように見えますが、白のキングサイドのポーン突きを緩手にする (攻撃対象をキングサイドから退避させることで、白の Ph4-Pg4 がキングサイドを弱めただけの手にさせる) という狙いがあります。

さらに、黒はここから e6-c5 と指せばフレンチのポーン形になるので、ポーン形は全く問題がありません。

白にはここからいくつか手があるのですが、一つ面白いプランを紹介します。黒が、「e6-c5 を指したい」と

いうプランを持っていることに目を付け、このプランを阻止するように指します。

6. Nd2!

Kramnik-Leko(2004) の新手であり、第 1 回で紹介した、世界選手権最終ラウンドのゲームの手でもあります。

この手には、次に 7. Nb3 として黒からの...c5 を防ぐ狙いがあります。

6... c5

それでも突いてしまいます。他にも 6... Qc8 などありますが、白のプランは同じです。最終的には Nb3 を狙い、黒の...c5 に対して対処します。

7. dxc5 e6 8. Nb3

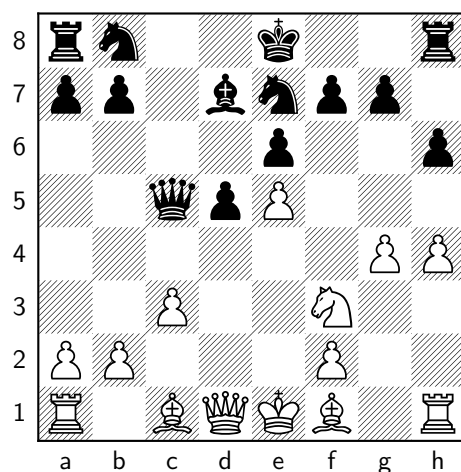
これで白はポーン得を守れるように見えますが、

8... Bxc5! 9. Nxc5 Qa5+ 10. c3 Qxc5

これでポーンを取り返せます。

11. Nf3 Ne7

11... Qc7 もありますが、黒はバッドビショップである白マスビショップを解消することが課題になります。



この局面をどう評価するかですが、黒のポーンストラクチャーはコンパクトで好形ですがバッドビショップを持っています。一方白もダブルビショップを持っていますが、キングサイドのポーン形が崩れています。アグレッシブなプレーを好むプレーヤーは白を、ソリッドなプレーヤーは黒を持ちたいと考える局面と思います。

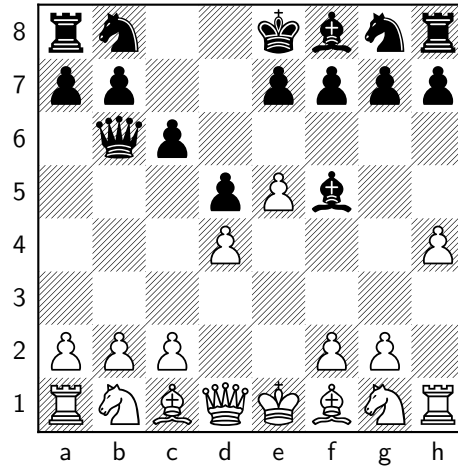
この後ですが、12. Nd4 が強いように感じます。黒はバッドビショップを解消するために...Bb5 からのビショップ交換が一つの狙いになるため、b5 マスを抑えてしまう狙いの手です。実戦例は 12. Bd3 か 12. h5 ですが、例えば 12. Nd4 Nbc6 13. Nb3 Qb6 14. Be3 Qc7 15. f4 と進めて、センターの黒マスを支配すれば白は指しやすいように思います。

1.4 4... Qb6 の変化

4... Qb6 は一種の手待ちであり、キングサイドを 4... h5 や 4... h6 で弱めずに、白の g4 突きに対して Bd7 に引くため、e ポーンも h ポーンも動かさない、という手です。

加えて、白の d4 ポーンに若干の圧力をかけた上で、...c5 を準備しています。

1. e4 c6 2. d4 d5 3. e5 Bf5 4. h4 Qb6



白にはいくつかの手がありますが、もっとも直接的な 5. g4 には 5... Bd7 と引いておいて、黒はフレンチ風に戦えます。ここで d ポーンが当たっているために Kramnik の 6. Nd2 が指せないのがポイント (6. Nd2?? Qxd4 -+) です。

また、5. a4 も面白い手ですが、そのような手があることの紹介にとどめ、深くは追いません。

5. Nc3

おそらく 4... Qb6 に対して最も効果的なのはこの手です。直接的には 5... c5 を防ぐ意味があります (5... c5?? 6. Nxd5) が、黒は白マスビショップ問題を何とかしないと e ポーンを突けないため、c5 を突くことができません。

5... h5

結局黒は、h ポーンを突くことになりました。それでは、4... h5 と同じ変化になるのではないかと思う向きもあるとは思いますが、一つ大きな違いがあります。

次回紹介しますが、4... h5 に対しては 5. c4 から 6. Nc3 と、「Pc4-Nc3 型」を作るのが白としては効果的です。しかし、この手順では 5. Nc3 と先に跳ねているため、「Pc2-Nc3 型」を白は強いられています。

このことにより、黒はやや c5 を突きやすくなっていると言えるでしょう。

6. Nge2

次回詳しく紹介しますが、この手は Ng3 から Be2 として、h5 をターゲットにしていく狙いがあります。黒の 4... Qb6 のおかげで、白は h4 をターゲットにされにくい形になっています。

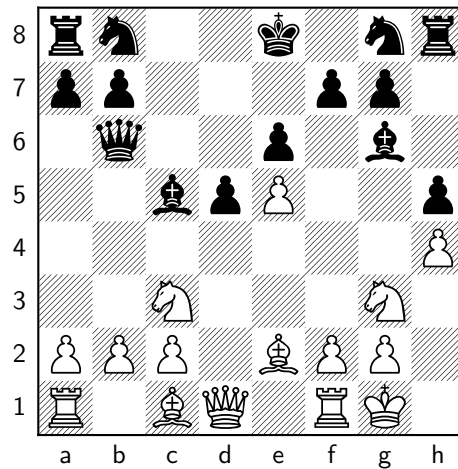
6... e6 7. Ng3 Bg6 8. Be2 c5

お互いに、白は h5 をターゲットにする、黒は...c5 からセンターをブレイクするという、当初の目的を達成したことになります。

9. dxc5

f8 のビショップが動いていないときのこのような手はフレンチやカロカンではあまり好ましくはないですが、仕方ありません。

9... Bxc5 10. O-O



ひと段落しました。黒は h5 のポーンを除いては大きな弱点がなく、ビショップも活動的です。白は e5, b2, h4 のポーンがターゲットになりやすい陣形ですが、ナイトがセンターに効いており次に Na4 の狙いもあります。ダイナミックなチャンスは白にありますが、ポジションとしては黒十分でしょう。ここから、白がどうやって手を作っていくか、白が考える必要があります。

10... Be7

Na4 の狙いを受けつつ、h4 のポーンに狙いをつける自然な手です。

11. Nb5!

c7 と d6 を睨むことで、黒に 11... Bxh4 と指しづらくする手です。

11... a6 12. Be3 Qd8 13. Nd4

やはり d4 が好位置です。何かの拍子に e6 にサクリファイスすることも視野に入られます。

この後は、Tindall - Smith (2002, Oceania Zonal Tournament) の進行をなぞります。

13... Bxh4 14. Nxh5 Bxh5 15. Bxh5 Qd7

白に Nxe6 の狙いがありました。

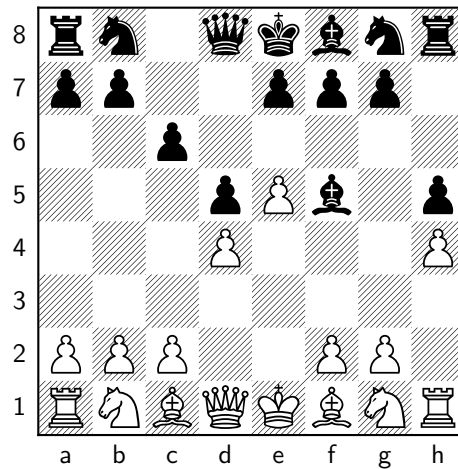
16. g3 Bd8 17. f4 g6 18. Bf3 =

この局面はもろもろの要素を考えて、白がやや良し (序盤のアドバンテージを失っていないくらい) と考えられます。

4... Qb6 は、いったん別の手を白に指させたのちメインラインに近い形に戻すことで、変化を限定しているという意味で面白い手であると思います。

1.5 4... h5 の変化

1. e4 c6 2. d4 d5 3. e5 Bf5 4. h4 h5



黒は白のキングサイドの拡張を止めるために、若干キングサイドを弱めます。今まで他の手を見てきたときに、白の狙いの一つは g4 突きであるということを強調してきましたが、この手はもっとも直接的に 5. g4 を防いでいます。

白は、黒の h5 のポーンをターゲットにして指していきたいところです。そのためにナイトの動きとして、Ne2-Ng3 を考えます。このナイトの動きは Tal Variation の白番に特有の動きであり、この形から h5 を取ることを狙いにして指していくことになります。

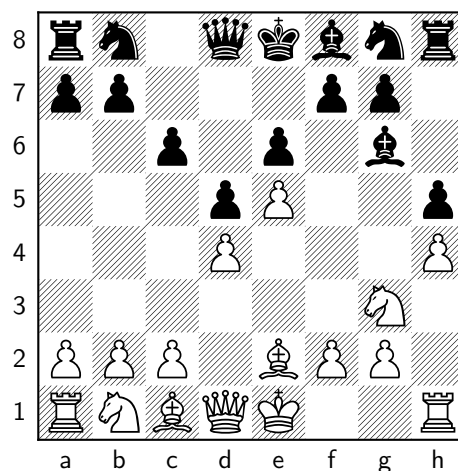
メインラインは 5. c4 ですが、その前に直接白が h5 のポーンを取りに行くとうなるかを見てみます。

1.5.1 4... h5 5. Ne2

1. e4 c6 2. d4 d5 3. e5 Bf5 4. h4 h5 5. Ne2!?

狙いはシンプルに、Ng3-Be2 として h5 のポーンを取りに行くことです。黒は Nf6 とできないため、h5 の数がどうしても足りず、白がポーン得するか、Bh7-Pg6 型を強要できるように見えますが……

5... e6 6. Ng3 Bg6 7. Be2



黒の反撃は？

7... c5!

いかにも Caro-Kann らしい反撃で、サイドからの攻撃に対してはセンターで反撃すべし、という原則にも従っています。手を進めてみます。

8. c3 Nc6 9. Be3 Qb6 10. Qb3 c4 11. Qxb6 axb6

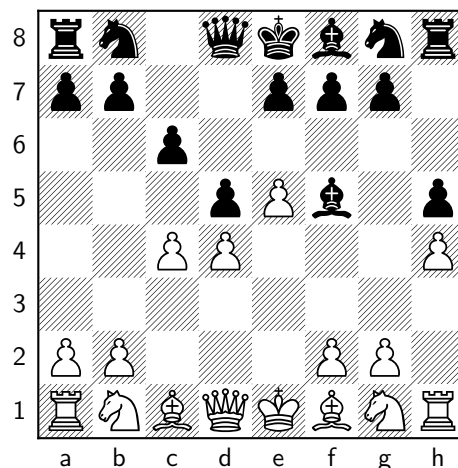
対ロンドンの黒番定跡や、フレンチの黒番定跡になじみ深いプランで、黒が有利です。この後は b5-b4 を狙っていきます。

このような反撃があるため、白の狙いとして、キングサイドを狙っていく前にセンターを固定することが有効です。

1.5.2 4... h5 5. c4

5. Ne2 から h5 のポーンをいきなりアタックすると失敗するので、白はまずはセンターを固定化する必要があります。こう見ていくと、メインラインの 5. c4 の一つの狙いが見えてきます。

1. e4 c6 2. d4 d5 3. e5 Bf5 4. h4 h5 5. c4



この手は 6. cxd5 cxd5 として黒からの...c5 反撃を防ぎつつ、キングサイドで圧力をかけていく狙いがあります。

5... e6

最も自然な手です。

6. Nc3

黒の d5 ポーンに圧力をかけながら...Bxb1 としてバッドビショップを解消される手を事前に受けます。

ここで黒は手が広く、6... Ne7、6... Nd7、6... Be7、6... dxc4 などが指されています。「白は cxd5 に対して黒に cxd5 と取り返させるのが狙い」ということを抑えていると、このあたりの黒の指し手の指針となるでしょう。

■1.5.2.1 6... Nd7

6... Nd7 は非常に Caro-Kann らしく自然な手ですが、この場合に限っては白に好手段があります。とはいえその手はすでに予告していますが。

7. cxd5!

センターの緊張を解消する手ですが、白は f5 のビショップや h5 のポーンをターゲットにしてキングサイドで手を作れるため、手に困ることがありません。

7... cxd5

...c5 の狙いを残す 7... exd5 は、8. Bd3 Bxd3 9. Qxd3 から Nf3-Bg5-Pe6 などの組み合わせで、黒のキングサイドが修復できないほどダメージを受けます。

8. Bg5

8. Nge2 から Ng3-Be2 を狙う手はまだ成立しません。詳細は省きますが、黒が Ne7-Nc6-Ndxe5 とする反撃があり、黒がセンターを逆に支配します。

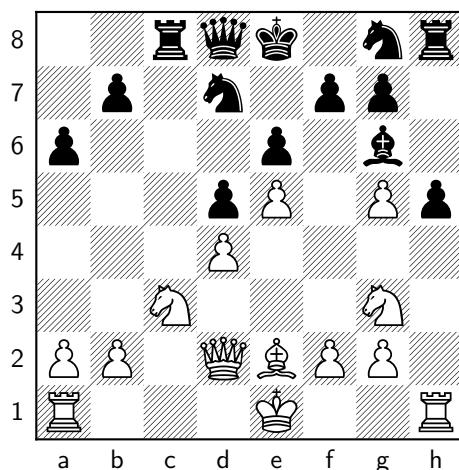
8... Be7 9. Qd2 a6

こうやって e7 をビショップで埋めさせた後に、

10. Nge2!

ようやく当初のプランを実行します。

10... Rc8 11. Ng3 Bg6 12. Be2 Bxg5 13. hxg5

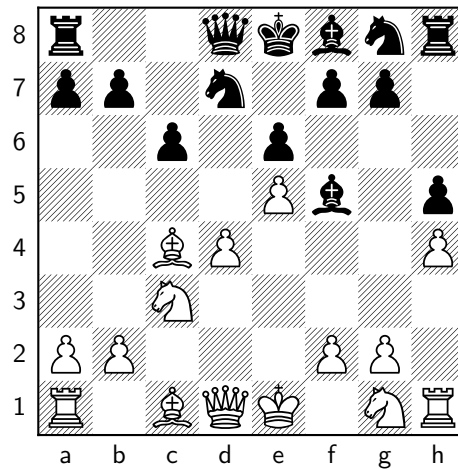


この局面は、キングサイドの圧力の強さと、ビショップの働きの差で先手が指しやすいでしょう。

■1.5.2.2 6... dxc4

黒からセンターの緊張を解消する手で、白の d4 ポーンをバックワードポーンにしてターゲットにするという意味もあります。その代わり、白は相手の手に乗って展開ができます。

6... cxd4 7. Bxc4 Nd7



前回の 6... Nd7 と、今回の 7... Nd7 の違いは明白です。前回は白から cxd5 と取られると、黒からの...c5 が不可能になりました。今回は、先にセンターを解消しているため、黒からの...c5 がオプションとして残ります。

8. Nge2 Nb6 9. Bb3 Be7 10.Ng3 Bg6

4. h4 のもう一つのポイントは、g5 マスを白が使いやすくなることです。9... Be7 は、g5 マスを抑えつつ、h4 のポーンにも狙いを付けています。

11. Nge4

黒が h4 のポーンを取ると、Nd6+ が非常に厳しいです。4. h4 の形のもう一つのポイントで、Ng3-Ne4-Nd6 というルートを見せることで黒の駒組みを制限します。

11... Nh6 12. Bxh6 Rxb6 13. Qd2

この局面は、黒も十分やれるという評価をされているようです。

代えて 10. g3! が白としては別プランです。

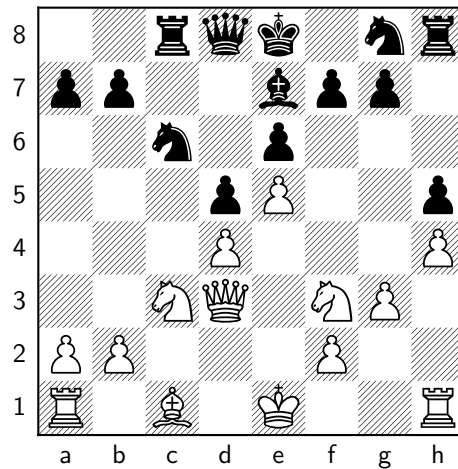
■1.5.2.3 6... Be7

この手は白の h4 にプレッシャーをかけつつ g5 を抑える狙いです。

6... Be7 7. cxd5 cxd5

白はこれで満足なように見えますが、h4 がアタックされているのでうまく Nge2-Ng3 ができません。

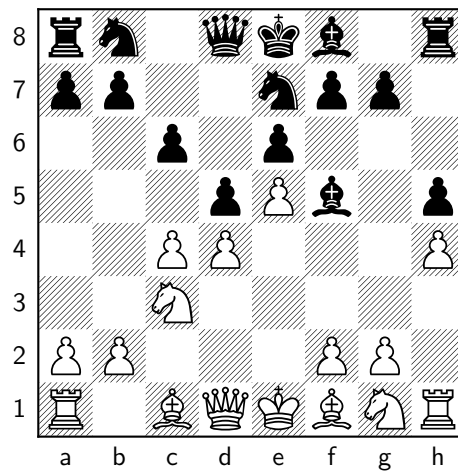
8. Bd3 Bxd3 9. Qxd3 Nc6 10. Nf3 Rc8 11. g3



お互いに相手の狙いを受けることで、より穏やかな局面になります。チャンスは互角と思います。

■1.5.2.4 6... Ne7

1. e4 c6 2. d4 d5 3. e5 Bf5 4. h4 h5 5. c4 e6 6. Nc3 Ne7



この手は非常に強力です。白から 7. cxd5 としてセンターを固めてしまう手を防ぐとともに、f5 に飛ぶ手を見せます。

ここから白はいろいろなプランがありますが、7. cxd5 は 7... Nxd5! で互角になります。また、7. Bg5 もあります。

最近流行りなのは 7. Nge2 なので、この手を見ていきましょう。

1.5.2.4.1 7. Nge2 dxc4

7. Nge2 dxc4

一旦 c ポーンが浮くので、この手もあります。

8. Ng3 b5

7... dxc4 と指したからには当然ポーンを守りたいところです。この時 9. Nxf5? に対して 9... Nxf5! と形よ

く取れるのも、6... Ne7 の効用です。

9. Bg5 Qa5

4... h5 の一つの欠点としては、g5 のコントロールが弱くなることです。そのため、9. Bg5 として g5 マスを使いに行くことが有効になります。9... Qa5 はビショップのピンを外しつつ c3 のナイトの動きに制限をかける手ですが、

10. a4! b4 11. Nce4 Bxe4 12. Nxe4 Nf5!

何回かテーマになっていた、d6 へのナイトの飛び込みも、これで防げます。

13. Bxc4 +=

ポーンを取り返し、やや白が良いでしょう。黒は 9... Qa5 に代えて、9... Qb6 や 9... Qd7などを模索する必要があると思います。

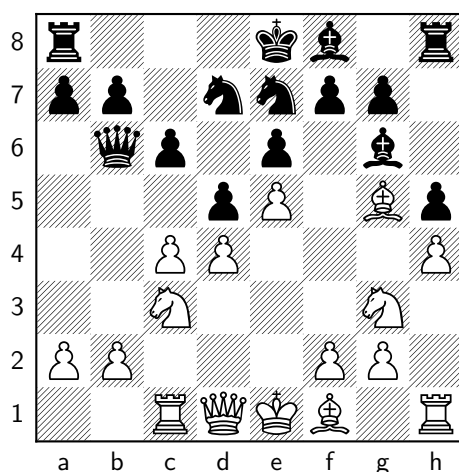
1.5.2.4.2 7. Nge2 Nd7

白の cxd5 が効果的ではないようにしてから、...Nd7 から...c5 を決行する狙いです。

7. Nge2 Nd7 8. Ng3 Bg6 9. Bg5

やはり、このピンは強力です。

9... Qb6 10. Rc1!?



b2 を狙う黒の 9 手目に対し、d2 に上がって受ける 10. Qd2 もありましたが、その後の展開は黒良しとされています。代えて、Sutovsky による 10. Rc1!?! が調べられています。

ポイントは、いったん c3 のナイトを守ることで、10... Qxb2 に対しては 11. Bd3 とするテンポを稼ぎ、Rb1 を狙いに指していくことです。

一例として 10... Qxb2 11. Bd3 dxc4 12. Bxg6! Nxe6 13. O-O Qa3 14. Nxe5 のように進み、白はギャンビットしたポーン分の代償がある局面でしょう。この局面はまだそこまで研究が進んでおらず、b2 のポーンを取れるのか、取れないとしたら白が良いのか、は難しい局面と思います。

2 French, Tarrach, Closed, Korchnoi Gambit

2.1 序論

French Defence(1. e4 e6) も、1. e4 に対する対策として人気があるオープニングです。特に、2019 年現在日本のプレーヤーの間では非常に流行している印象です。手堅い形を作れること、それでいながらポジショナルにもタクティカルにも黒から手を作っていけることなどが人気の理由でしょうか。

さて、ここで紹介する Korchnoi Gambit は French Defence に対して白番が採用する定跡です。名前の由来である GM Korchnoi は黒番で French を採用していたことで有名です。世界選手権にも 2 度登場した強豪中の強豪です。French Defence の大家が見せる French 破りを紹介します。

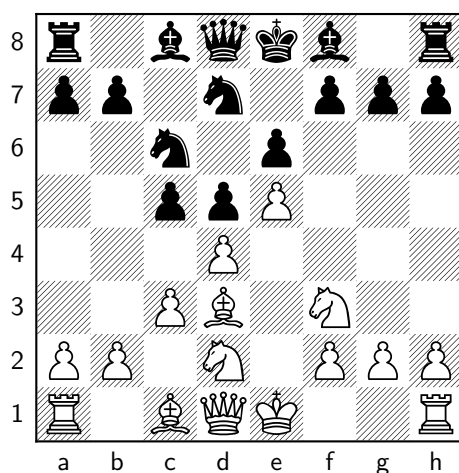
1.e4 e5 2. d4 d5 3. Nd2

Tarrasch Defence です。黒の対応としては 3... c5 (Tarrasch Open) と 3... Nf6 (Tarrasch Closed) に分かります。個人的な印象ですが Closed のほうが French っぽいポーンストラクチャーになるのでよく見る気がします。

3... Nf6 4. e5 Nfd7 5. Bd3 c5 6. c3 Nc6

このあたりは定跡です。Closed Tarrasch は Bd3 のラインで使います。

7. Ngf3!?



この手が Korchnoi Gambit に入るために必要な手です。Main Line は 7. Ne2 です。7. Ne2 cxd4 8. cxd4 f6 9. Nf4! というラインも激しいことで有名です。

一見自然な手ですが、黒には次の手があります。

7... Qb6

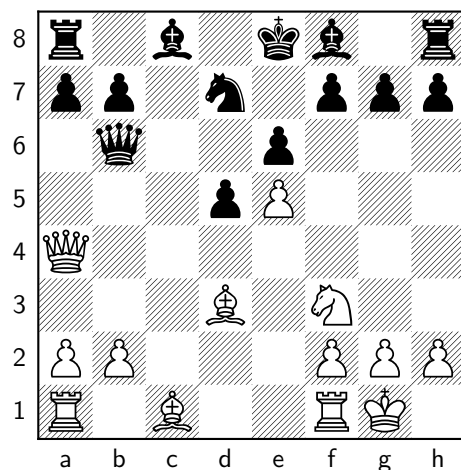
これでポーンダウンを避けるためには白は 8. Qa4 か 8. dxc5 という手しかなく、主導権を黒に握られることになりそうです。そのため、以下のようにポーンを捨てます。

8. O-O cxd4 9. cxd4 Nxd4 10. Nxd4 Qxd4

一見白が大変まずそうな局面ですが、白には次の手があります。

11. Nf3 Qb6 12. Qa4!

11. Nf3 で、e5 のポーンと d3 のビショップが同時に守れます。黒クイーンの退却に対し、12. Qa4!と指します。このあたりが Korchnoi Gambit の基本形だと思います。



この局面、黒の利点は明確で、ポーン、それもセンターポーンが白より 1 つ多いです。このまま駒交換が進めば d ポーンもプロテクテッドパスポーンになりそうです。これは中盤-終盤では明確なメリットとなります。一方欠点としては駒展開が若干遅れていることがありそうです。12... Nc5 とは指せませんね。

白の利点・欠点は黒の逆で、駒展開は進んでいるが駒損しています。

この後、白の方針としては Qg4 からキングサイドアタックを狙います。キングサイドアタックは以下の戦略に基づくはずで。

- 黒は黒マスビショップを展開しないといけない。
- 黒が黒マスビショップを展開すると、g7 ポーンが浮くため攻撃対象になる。
- 白のクイーンが g4 にいても、黒は Nf6 とは飛べず、ポーンチェーンで白マスビショップのラインが閉じているためクイーンに対するアタックを受けない。
- French の常套手段である、黒 Pf6 からセンターポーンを清算するラインはキングの斜めのラインが開くため、このラインの白 Qg4 の後では成立しないことが多い。
- f7 ポーンをプロテクトすることが難しい。ナイト・白マスビショップではすぐに守れず、当然黒マスビショップでも守れない。
- c ファイルが素通しのため、キングサイドアタックを受けた際にクイーンサイドに逃げ込めなくなる可能性がある (Rac1 が決め手になることがある)

そのため、黒のディフェンスは、白 Qg4 を防ぐことを主眼に考える必要があるはずで。

データベースを見ると、主に黒のディフェンスは 3 通りあるようです。

- 12... Bc5
- 12... Be7
- 12... Qb4

Main Line は 12... Qb4 で、有力な Side Line は 12... Be7 らしいですが、まず 12... Bc5 を見てみようと思

います。

2.2 12... Bc5 の変化

一見自然な 12... Bc5 ですが黒は正確に受けないといけなくなります。変化を見てみます。

12... Bc5 に対しては、13. Qg4! が相当大変な手です。受け方は主に 2 通りで、13... Kf8 と 13... g6 があります。

2.2.1 12... Bc5 13. Qg4! Kf8

13... Kf8 に対しては、14. Bd2!? が面白い手。2 つめのポーンを黒に献上する手ですが、14... Qxb2?! には 15. Qf4! として次の Ng5 が破壊的です。例を挙げると 15. Qf4 Qb6 16. Ng5 Nxe5 17. Qxe5 f6 18. Qg3 fxg5 19. Bxg5 Qd6 20. Be3(d4 を突かせて Be4 を作る) のような感じで攻めが続きます。

キングサイドを守る手、例えば 14... Be7 等であれば 15. b4 として c5 にビースを置かせないようにしてからルークを c ファイルに回して c ファイルを抑えてしまえば互角-やや指しやすい形勢と思います。

2.2.2 12... Bc5 13. Qg4! g6

13... g6 に対しては、黒マスの弱点を突く 14. Bh6! があります。やはり 14... Qxb2 には 15. Rab1! として、15... Qxa2?! と 3 つめのポーンを取られたら 16. Ng5 とします。キングサイドを守る 16... Be7 には 17. Bb5 として攻撃が続きます。黒ナイトがピンされているので Nxe6-Qxe6 が効きやすいのがポイント。

15... Qa3 のほうがよく、16. Bb5 a6 17. Bxd7 Bxd7 18. Rxb7 となります。

14... Bf8 が本線ですが、15. Qf4 Qb4 16. Qc1 Qc5 17. Bxf8 Qxc1 18. Raxc1 Kxf8 19. Rc7 として駒の効率で十分ポーン損の代償は取れているでしょう。

2.3 12... Be7 の変化

主観ではこの変化が実戦で一番よく出会うように感じます。ここでも 13. Qg4! は有力だと思っています。

基本的には 13... g6 14. h4 と進むことが多いです。この後白はキングサイドアタックを仕掛けていき、黒はそれを受けるという展開になります。ちなみに黒としては、キングサイドアタックを避けるために 14... Nc5 15. Bc2 Bd7 16. Rd1 O-O-O とするのは若干急ぎすぎで、白は Rb1-Be3-Qf4-Ng5 のようにしてキングサイドでポーンを取り返せます。

13... g6 14. h4 のあと、黒としてのプランはいくつかあります。

1. キングサイドにキャスリングし、正面から白の攻めを受け切る。
2. クイーンサイドにキャスリングし、キングサイドは軽く流す。
3. クイーンを交換して白のアタックを緩和する。

1. は例えば 14... O-O? であれば 15. h5! Qb4 16. Qg3 等で白十分。

2. を実現するためには白マスビショップを動かす必要があり、そのためにはナイトを動かす必要があります。そのため 14... Nf8 と 14... Nc5 等が考えられます。

3. は 14... Qb4 です。

2.3.1 12... Be7 13. Qg4 g6 14. h4 Nf8

黒マスを弱くするやや危険な手で、15. Bg5!と黒のグッドビショップを交換しに行く手があります。この手に対して 15... Bc5?は 16. Rac1 h6 17. Bf6 Rg8 18. Qf4!とします。ここで黒がポーンを守る 18... h5?に対しては、19. Rxc5!!が成立します。19... Qxc5 20. Rc1 Qb6 21. Ng5!として次の Nxf7 から Bd8(ディスカバードチェック)、Bxb6 を狙っていけば白はつきり良し。

そのため、18... Bd7 くらいですが、19. Qxh6 として白十分でしょう。

15. Bg5 に対して 15... Qb4 であれば 16. Qxb4 Bxb4 17. Bf6 Rg8 18. Rac1 として、c ファイルを支配しておけば白十分。

2.3.2 12... Be7 13. Qg4 g6 14. h4 Nc5

この手は自然な手に見えますが、黒としてはしばらく Qb4 を指せなくなるというデメリットがあります。Korchnoi Gambit において黒の Qb4 は白のプレッシャーを解消する最良の手段なので、ひとつプレッシャーを解消するオプションを無くしてしまったということになります。

例えば、この後 15. Bc2 Bd7 16. Rd1 O-O-O!? 17. Rb1 Bc6? 18. b4!のように進み、b4 のマスをしっかりと抑えられます。17... Bb5!?!が正しく、18. b4! Na4 19. Be3 のように進みます。黒クイーンとキングがアタックを受けやすく、実践的には危険でしょう。

2.3.3 12... Be7 13. Qg4 g6 14. h4 Qb4

Korchnoi Gambit の refutation としては、やはりどこかのタイミングで黒 Qb4 を指すことに軍配が上がるでしょう。(しかし、知らないとい指せない手でもあります。) この後は例えば 15. Qg3 Nc5(コンピュータは 15. Qxb4 Bxb4 を推奨しますが、白の一貫したプランが見えません。) 16. Bd2!?!のように進むでしょう(ちなみにうっかり 16... Qxb2 は 17. Rfb1! Qa3?? 18. Bb5+! Bd7 19. Bb4 Ne4 20. Bxd7+! Kxd7 21. Bxa3 Nxc3 22. Rxb7+ Kc6 23. Rxe7 となります。)

2.4 12... Qb4 の変化

これがメインラインとして MCO(Modern Chess Openings) にも載っているラインです。以下 13. Qc2 Qc5 14. Bxh7 のように進み、白はポーンを取り返します。このラインで黒はイコアライズに成功するというのが一般的な評価です。なので、13. Qc2 Qc5 14. Qe2!のように白は工夫する必要があります。

そのあとは例えば 14... Qb6 15. a3 Nc5 16. Be3 Qd8 17. Bxh7!など (17... Rxh7 18. Bxc5 Bxc5 19. Qb5+ Bd7 20. Qxc5 となり、評価が難しい局面ですがポーンが多く残っていてマイナーピースがバッドビショップ対ナイトなので、Q と R をさばいてしまってマイナーピースだけの終盤にすれば白が面白く指せるはずです)。

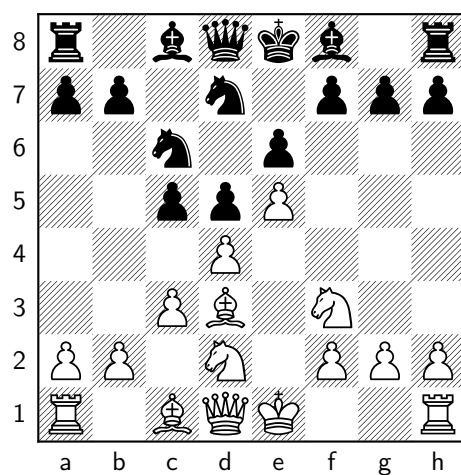
総じて Korchnoi Gambit は白が全体的に強い圧力を盤面全体にかけられる変化であり、研究しがいのある変化だと思います。

2.5 Anti-Korchnoi Gambit

Korchnoi Gambit は正しく指せば黒悪くはならないのですが、キャスリングが遅れる、全体的にスペースアドバンテージがない等、黒にも嫌な部分があります。

そのため黒から Korchnoi Gambit を避ける手も定跡化されています。d4 ポーンを取らず、キングサイドのポーンを突くことでキングサイドアタックを緩和するというのが主なプランになります。

1. e4 e6 2. d4 d5 3. Nd2 Nf6 4. e5 Nfd7 5. Bd3 c5 6. c3 Nc6 7. Ngf3!? で Korchnoi Gambit との境目になります。ここで 7... Qb6 8. O-O cxd4 とすれば Korchnoi Gambit のメインラインですが、d ポーンを取りにいかないことも黒は可能です。



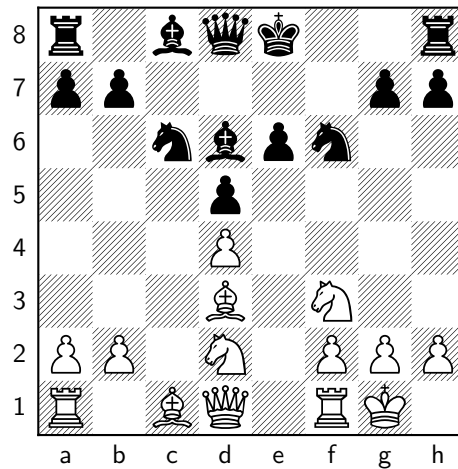
7. Ngf3!?まで

2.5.1 7... cxd4 8. cxd4 f6

Closed Tarrasch の 7. Ne2 メインラインと同じように進める場合。ちなみに、Mikhail Tal が 9. Ng5!? fxg5 10. Qh5+ g6 11. Bxg6+!?とやっていますが、成立しているかは微妙なところ。

実際、メインラインと同様に進めるとどうなるのか。以下で見えていきます。なお、本稿においては 7. Ngf3 から派生する局面を「7. Ngf3 型」、7. Ne2(Main Line) から派生する局面を「7. Ne2 型」と呼びます。

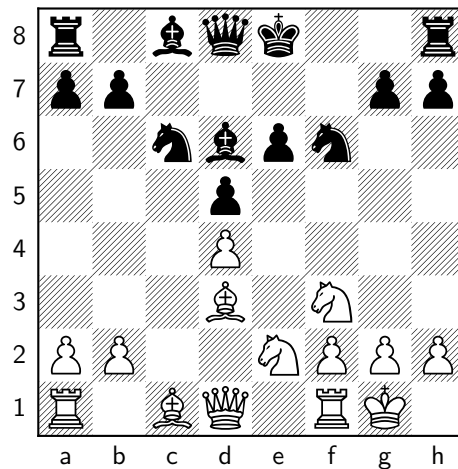
7... cxd4 8. cxd4 f6 9. exf6 Nxf6 10.O-O! Bd6 で下図。



Tarrasch Main Line では 10. Nf3 と指すところ、すでに f3 にナイトがいるので 10.O-O!とできます。

ここで、Tarrasch Main Line と比較してみましょう。少し長いですが、11. O-O まで下のとおりです。

1.e4 e6 2.d4 d5 3.Nd2 Nf6 4.e5 Nfd7 5.Bd3 c5 6.c3 Nc6 7.Ne2 cxd4 8.cxd4 f6 9.exf6 Nxf6
10.Nf3 Bd6 11.O-O



上 (7. Ngf3) と下 (7. Ne2) を比較すると、どうでしょうか。似た局面ですが、違いを理解してそれぞれ個別のプランに結び付けることが重要です。

違いは白ナイトの位置と手番ですね。

7. Ngf3 型は Nd2、7. Ne2 型は Ne2 にナイトがいます。そのため、7. Ngf3 型では e ファイルがハーフオープンになっていて、かつルークをすぐに敵陣に直射させられる陣形になっています。

加えて、手番は 7. Ngf3 型が白、7. Ne2 型が黒になっています。このことを考えると、7. Ngf3 型のほうが白は攻勢を取りやすいと言えるでしょう。

次に黒の陣形について考えます。黒の陣形としては、e6 ポーンが弱くなっているが、ハーフオープンになった f ファイルにルークを配備しつつキャスリングする手が可能です。そのため、黒も十分反撃はできるといえるでしょう。

上記の検討から、7. Ngf3 型では、11. Re1 と指し、黒の f ファイルからの反撃が来る前に e ポーンにプレッシャーをかけていくことが可能です。例えばそのあとは Nb3, Qe2 のような陣形を作り、e ポーンを狙って指せば白指しやすいでしょう。

逆に黒は、7. Ngf3 を相手にメインラインと同じ指し方をする際には、同じプランで指してはいけないということがわかると思います。

2.5.2 7... Be7 8. O-O g5!

割と意外性の高いプランです。というのは、ここで黒は、通常の French のラインではあまり採用されることがない、キングサイドにプレッシャーをかけるプランを選択しているからです。このプランは、全体的に非常に乱戦になります。GM Nakamura、GM Volkov が黒を持ってしばしば指すラインでもあります。

さて、この手に対する対策はどうするのがいいのでしょうか。

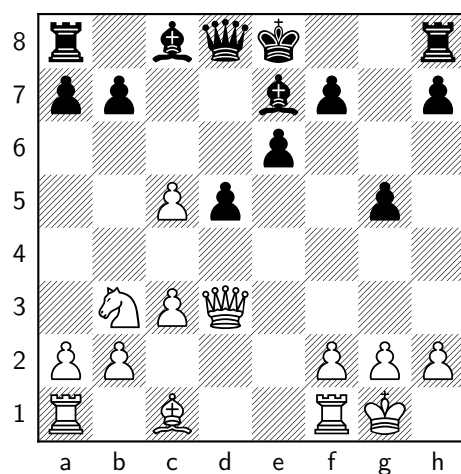
7... Be7 8. O-O g5! 9. dxc5

French では珍しく、白から c ポーンを取ります。白のセンターポーンは崩壊しますが、代わりに盤面全体にプレッシャーをかけることでバランスを取ります。

9... Ndx5 10. Nxe5 Nxe5 11. Nb3!

この場所に居座ったナイトが容易に取られないため、c5 のポーンも守られるというのが主張です。

11... Nxd3 12. Qxd3



この後は白は盤面全体の黒マスを抑えるために f4 突きを狙い、黒はそれを妨害する、というプランに沿って手順が進みます。なので 12... e5! が良い手。黒がダブルビショップを持っているのに対して白はナイト + ビショップを持っているため、白としてはなるべくクローズな局面にすることが肝要です。

French Tarrasch の 7. Ngf3 型は、鉾脈も多く残っている面白い戦型だと思います。French 対策として、十分考慮に値する定跡ではないでしょうか。